

宣教の情熱

コ林ントの信徒への手紙Ⅱ一一章16～33節

12/28

(日)

誰かが弱っているのに、私も弱らずにいられるでしようか。
誰かがつまずいているのに、私が心を痛めずにいられるでし
ょうか。(29)

この箇所には、パウロが宣教のために経験してきた苦難が記されています。この
のような苦しみに遭いながら、パウロはなぜ福音を伝え続けることが出来たので
しょうか。今日の聖句には、パウロの心の内からほとばしり出る宣教の情熱が語
られています。罪を犯し、滅びに向かっている多くの人々を横目に見ながら、自
分は平気でいることなど出来るはずがないとパウロは語るのです。キリストの救
いを必要としている人々を目の当たりにするとき、彼は突き動かされるようにな
り福音を語り続けました。このパウロの思いは、主イエスご自身の私たちに対す
る思いではないでしようか。パウロはまさしくキリストの僕でした。パウロのこ
の情熱を聞くとき、私たちの心も熱く燃やされるのではないでしようか。私たち
も、滅びに向かう人々の救いのために用いていただこうではありませんか。